

京都国立近代美術館

京都市左京区岡崎円勝寺町 TEL:075-761-4111 <http://www.momak.go.jp>

- 開館時間：9:30-17:00(入館は16:30まで)
- 休館日：月曜日(祝日・振替休日の場合は翌火曜日が休館)
※館内改修工事のため、2009年12月28日～2010年3月29日まで全館休館しますのでご了承ください。
- 観覧料：コレクション展(常設展)／一般420(210)円 大学生130(70)円
高校生および18歳未満は無料()内は20名以上の団体料金
※企画展観覧料は、展覧会によって異なります。
- 交通：京都市バス「京都会館美術館前」下車すぐ 京都市地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

京都国立近代美術館が建つ京都・岡崎の地では、古くは1895年に第4回内国勸業博覧会が開催され、同時開催された「平安遷都千百年記念祭」のシンボルとして、現在の平安神宮が建立されました。当館はその平安神宮の大鳥居の真横に位置し、近隣の京都府立図書館や、京都会館、京都市美術館、京都市動物園、京都市勸業館などとともに、京都の文化ゾーンを形成しています。東山を背景に平安神宮の大鳥居を間近に見られる4階や、琵琶湖疏水をのぞむことのできる1階ロビーは市民の憩いの場として、またひそかな観光スポットとして親しまれています。

当館は、1963年に当時東京・京橋に置かれていた国立近代美術館の京都分館として発足しました。発足当初は現在の京都市勸業館の別館1・2階を改修し、美術館として運営され、「京都国立近代美術館」として独立したのは1967年のことです。しかし、この建物は1937年に建てられており、もともと美術館として設計されていなかったため、会場の狭さや空調設備の問題など美術館活動に不備な点が多く、早くから新しい美術館の建設が議論されてきました。そこで、美術館の運営にあたって機能的であることや、風致地区である岡崎の環境に配慮することなどを基本方針として、1973年から新館建設の準備が進められました。建築家・槇文彦の設計による新館は1986年に竣工し、

旧館にほど近い現在の場所へと移転しました。

当館の特色は、伝統工芸の技術が根付いた京都という土地柄から、工芸に比重を置いた展覧会の開催、作品収集に努めてきたことです。開館以来、一貫して工芸の展覧会はジャンルを問わず数多く開催し、「生誕100年記念 豊田勝秋展」(1997年)や「京都の工芸 [1910 - 1940]」展(1998年)、「京都の工芸 [1945 - 2000]」展(2001年)をはじめとする展覧会で、金工の作品を紹介してきました。また近代以降の美術史にひろく目を配りつつも、主として関西で活躍した美術家を取りあげ、京都を中心とする近代美術の回顧を試み、一方で国内外の現代美術の多様な動向の紹介にも力を注いでいます。

このような多岐にわたる美術館活動に連動するかたちで、収蔵作品も幅広く特色あるものとなっており、その作品数は2008年度末の時点で、9,500点以上にのぼります。特にまとまった作品数を収蔵し、コレクションの重要な柱となっているものとして、陶芸家・河井寛次郎と親交の厚かった川勝堅一氏寄贈の河井作品424点からなる「川勝コレクション」、マニエール・ノワールと呼ばれる銅版画技法を復興したことで知られる版画家・長谷川潔の作家自選によるコレクション、近代写真を代表する巨匠のオリジナル・プリントを多数含む写真作品約1000点による「ギルバート・



初代 稲葉七穂《七宝装飾飾棚》

1904(明治37)年 セントルイス博覧会出品作、錦雲軒稲葉七宝寄贈

さわめて透明感のある色鮮やかな七宝で藤や菊花の装飾が施された、豪華な飾棚。1904年のセントルイス博覧会に出品され、受賞したものです。初代稲葉七穂は、1889年に七宝製作にも従事していた陶工の錦雲軒尾崎久兵衛から屋号を継ぎ、「錦雲軒稲葉」を創業しました。二代稲葉七穂(1885-1976)は1925(大正14)年にパリの万国博覧会で銀牌を受賞したのをはじめ、特に海外で高い評価を受けています。並河靖之(1845-1927)亡き後の京七宝を牽引する存在で、四代七穂までその技は伝承され、近年まで最後の京七宝を守り続けました。



清水南山《赤童子図色紙箱》

1931(昭和6)年 第12回帝展出品作

清水南山は1875(明治8)年に現在の広島県三原市に生まれ、東京美術学校で加納夏雄と海野勝珉の二人の名工に師事しました。1919(大正8)年に東京美術学校教授となり、帝展審査員、帝室技芸員、帝国美術院会員などを歴任し、その高い技術で大正から昭和の彫金界の重鎮として活躍しました。本作は、立体的に表された赤童子と彫りによって表現されたうねる波が調和し、両師から学んだ技術と古作研究の成果が生かされた南山らしい作品といえるでしょう。

コレクション」や、版画家・池田満寿夫の長年のパートナーであった佐藤陽子氏寄贈による池田の版画作品809点による「M&Yコレクション」などがあります。上村松園、土田麦僊、小野竹喬、浅井忠、須田国太郎など、関西や京都ゆかりの近代美術の作家の代表作はもちろんのこと、数は多くはありませんが、アンリ・マティスやパブロ・ピカソ、ピエト・モンドリアンなど海外作家の優品も収蔵しています。

当館が所蔵する金工作品は74点と、収蔵作品に占める割合はさほど多くはありませんが、清水南山、北原千鹿、香取秀真、豊田勝秋、長野埜志、越智健三など、近代以降の金工史をたどる上で欠かせない重要な作家の優品を所蔵し、年間約10回の展示替えを行うコレクション展(常設展)で適宜紹介しています。

(京都国立近代美術館研究員 中尾優衣)

開催予定の展覧会のご案内 「ボルゲーゼ美術館展 ラファエロ《一角獣を抱く貴婦人》」

ボルゲーゼ美術館は、17世紀初頭に、ローマの名門貴族ボルゲーゼ家によって収集された美術作品を展示するために建てられた荘館に由来します。本展では、数多くの日本初公開を含む、コレクション選りすぐりの作品約50点によって、ボッティチェリからラファエロ、カラヴァッジョに至るイタリア美術の粋をご紹介します。

主催：京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHK
プラネット近畿

会期：10月31日(土)～12月27日(日)

休館日：月曜日(ただし11月2日(月)、11月23日(月・祝)は開館)

観覧料：一般1400円、大学生1000円、高校生500円、

中学生以下は無料